

令和 7 年12月19日

三鷹市議会議長 伊 藤 俊 明 様

総務委員長 加 藤 こうじ

総務委員会管外視察結果報告書

本委員会は、令和 7 年度管外視察を下記のとおり実施したので報告いたします。

記

1 視察期日

令和 7 年10月23日（木）から10月24日（金）まで

2 視察先

焼津市（静岡県）、加古川市（兵庫県）

3 視察項目

(1) 市ホームページのリニューアル（焼津市）

本市ホームページは、前回のシステムリニューアルから16年が経過し、情報の検索性やモバイルユーザーへの対応、現行のCMS機能（コンテンツ作成機能）などに課題が生じていることから、令和 9 年 1 月の全面リニューアルに向けて準備を進めている。生成AIを活用したサイト内検索機能の導入、外部サイトや特集ページの統合・整理による情報発信の最適化、職員が使いやすいCMS機能の構築による積極的な情報発信などの視点で検討を進め、誰もが情報を探しやすく、使いやすいホームページを目指している。

そこで、本市議会としても、アクセシビリティ（障がいの有無にかかわらず誰もが利用できること）の対応強化とユーザビリティ（使いやすさ）の向上を図り、市政情報のポータル及びデータベースとしてふさわしいサイトの構築の参考とするため、先進事例の視察を行った。

(2) スマートシティに関する取組（加古川市版Decidim）（加古川市）

本市では、スマートシティの実現に向けて、市民が「いつでも」「どこでも」「だれもが」暮らしやすさを実感できる環境の整備を目指し、令和 7 年 3 月に「三鷹市都市経営アクションプラン2027」を策定した。この計画では、「デジタル技術の活用」を最も重要な柱の 1 つとして位置づけている。計画の

中では、災害に強い都市基盤の構築と情報共有の迅速化を図る「セーフティ」、健康寿命の延伸と疾病予防を推進する「ウェルネス」、安全かつ効率的な交通環境の整備を目指す「モビリティ」、地域課題の解決に向けた多様な連携を促進する「コラボレーション」、そして行政サービスのオンライン化などを通じて市役所のDX改革を進める「スマート市役所」の5つのテーマを重点的に取り組む分野として掲げている。

具体的な施策としては、行政手続のオンライン化や窓口業務の改革を進める「窓口DX」の推進、デジタルツールを活用した住民の健康促進、防災情報の迅速な共有、市庁舎内でのフリーアドレス制の導入・拡充、職員の働き方改革やリモートワーク環境の整備、市民の声を反映する新たなコミュニティの在り方の研究などに取り組んでいる。

そこで、本市議会としても、デジタル技術のさらなる活用の参考とするため、先進事例の視察を行った。

4 出張者

(1) 総務委員

加藤こうじ、赤松 大一、山田さとみ、吉野けんさく、高谷真一郎、
野村 羊子、大城 美幸

(2) 同行職員

総務部調整担当部長 田中 博文

(3) 随員職員

議会事務局副主幹 駒田 圭佑

焼津市

市ホームページのリニューアル

1 新ホームページの概要・特徴

焼津市においては、アクセス数が年間約600万回（月間約50万回）、年間ページ公開数が年間約7,600ページ（平日約30ページ程度）に達するなど、ホームページは市民にとって重要な情報源であり、市民生活に欠かせないものとなっている。ところが、リニューアル前のホームページにおいては、「探しづらい」、「古い（使いづらい）」、「魅力がない」といった課題があり、伝わらない情報は存在しないのと同じとの考えの下、リニューアルで課題を全て解決することを目指すこととした。また、今後10年は使うことを想定していたことから、情報が更新され続けることによる魅力の維持が絶対条件であったことから、利用者はもちろん、職員にも使いやすいホームページとすることを目指したところである。

導入に当たっては、2022年4月より制度設計、カテゴリーの整理を行い、1年間かけて仕様書を固めるとともに、2023年2月に5社程度にRFI（情報提供依頼書）の提出を求め、情報の収集や比較検討を行った。実際の導入には最低8か月はかかることから、2023年4月にプロポーザル広告を行い、2024年2月にリニューアル公開し、14年ぶりの全面リニューアルとなった。

【焼津市ホームページ】リニューアルの概要

**焼津市ホームページは、
14年ぶりに全面リニューアル！**

【市ホームページの変遷】

◀2000年頃
◀2008年頃
◀2012年頃（CMSへ）
◀2023

2024.2 RENEWAL

The collage shows four versions of the homepage: 2000 (basic text and images), 2008 (more structured layout), 2012 (CMS-based design), and 2023 (modern, clean design). A large blue arrow points from the 2023 version to the 2024.2 RENEWAL version, which is shown in a larger, more detailed view on the right. The 2024.2 version features a header with the city logo and navigation menu, a main banner with a scenic view, and two main sections: 'LIFE USEFUL NAVI' (生活便利ナビ) and 'PICK UP' (ピックアップ). The 'LIFE USEFUL NAVI' section includes links for '生活便利ナビ' (Life Useful Navi) and '電子申請サービス' (Electronic Application Service). The 'PICK UP' section features 'スマートシティYAIZU' (Smart City YAIZU) and 'スマートシティYAIZU' (Smart City YAIZU). A yellow box at the bottom right of the 2024.2 version states: '▶カテゴリー分類・URL・ネットワーク環境など全てをイチから見直し' (Reviewing everything from category classification, URL, network environment, etc. from scratch).

焼津市提供資料より

予算については、プロポーザル方式により業者を選定し、サーバー調達を含む導入予算は約3,080万円程度、サーバー・研修費を含む運営予算は年間約476万円となった。2009年のリニューアル時は約900万円であり、また近年の他自治体に

おける導入予算は約500万円から約6,000万円と幅があったが、「安かろう悪かろう」で使いにくくは意味がなく、市民の命を守るためのホームページであることから、規模の類似する地方公共団体の予算を根拠に、人口やページ数に応じた妥当な金額として予算の配分を受けたものである。

(1) リニューアルのポイント

ア 使いやすさの向上

(ア) スマートフォンに完全対応

片手で操作しやすいよう計算し設計されたモバイルファーストのユーザーインターフェースに生まれ変わった。

(イ) 誰もが分かりやすいデザイン

イメージイラストやアイコン付ボタンを積極的に採用することにより、情報へのアクセスがより直感的にできるようになり、内容が「見える」デザインとしている。また、メニュー等もページの先が予測できる構成にすることにより、使いづらさを感じないようにしている。

【焼津市ホームページ】リニューアルの概要

使いやすさUP！
POINT 02 誰もが分かりやすい直感的なデザイン

新機能

ページ右上
緊急情報
メニュー
いつでも、どこからでも

ページ右側 (スマホは下部)
同じ分類から探す
→ 障害者福祉
→ 障害のある人の働き後の備えについて
→ 障害者手帳
→ 手当てや年金
→ 補助や助成
近くて似た情報もわかる

ページの先が予測できる構成に

開閉式でその先の様子がわかる

焼津市提供資料より

(ウ) ユニバーサルデザインフォントを採用

ユニバーサルデザイン (UD) フォントを採用することにより、文字がはっきり、見やすく、読みやすくなるとともに、文字入りのボタンも画像ではなくテキストとすることにより、音声読み上げや外国語翻訳に対応している。

(エ) 132か国語もの多言語自動翻訳の採用

従来の手翻訳による「生活ガイドページ (6言語)」に加え、グーグルエンジンを活用した自動翻訳機能を採用することにより、132か国語へ

の自動翻訳を可能にしている。

(オ) 職員が使いやすい新機能の搭載

承認依頼が来たことが分かる「メールお知らせ機能」、「魅せる」を目的としたデザインページが作れる機能の搭載、テンプレートを選ぶことで自動で目的の場所にページ生成、承認時、前回とどこが変更されたのか分かる「差分チェック機能」、コンテンツの目次を自動で作成する「自動目次機能」、今までより簡単になったリンク管理、イベントや施設テンプレートに自由領域が追加され、デザインの自由度が向上、今まで手動設定だったものが一部自動設定化などの様々な新機能を搭載し、職員にも使いやすいホームページとしている。

イ 探しやすいさの向上

(ア) タブ切替えの便利な生活ナビ

ライフステージに合ったタブを選ぶことで自分が欲しい情報に簡単にアクセスできるようにするとともに、選択したタグに応じて表示される生活便利ナビに表示する内容についても、これまでの閲覧実績を基に見直しを実施した。

(イ) 探しやすいメニューボタン

全ての情報にアクセスできるナビゲーションメニューを全ページの上
部に配置している。

(ウ) 使いやすいイベントカレンダー

ジャンル等による絞り込みを可能とし、カレンダー形式と一覧表示を選択できるようにしている。また、イベント情報には必ずサムネイルを入れるなど、視覚に訴える情報を掲載している。

探しやすいUP！

POINT 03

【津州市ホームページ】リニューアルの概要

使いやすいイベントカレンダー

▼従来のイベントカレンダー

- テキストリンクが羅列…
- カレンダーからイベントが想像できない…
- 複数日開催のイベントに非対応…
- イベントが魅力的に伝わらない…

▼新イベントカレンダー

イベント情報を絞り込む
ジャンルを選択、検索、並び替え、表示数設定、ページネーションなど。

カレンダー形式で一目瞭然

期間イベントも一目瞭然

一覧表示も可

イベントカレンダーの機能が大幅進化！

焼津市提供資料より

(エ) かんたんナビ・FAQ機能

簡単な質問に答えるだけで手続に必要な持ち物、窓口、流れが分かる仕組みとなっており、メニューに載せる手続もアクセスの多い10項目に絞るとともに、あえて簡単な回答とすることにより、正確性ではなく、8割の人に対応できる伝わりやすさを重視したつくりとしている。よくある質問についても、市民から特に多い質問項目について230問程度のFAQを1箇所に集約し、1問1答の簡単な内容で掲載している。

(オ) ナビゲーション機能の大幅パワーアップ

ページ右側にあるナビゲーション機能には、同階層ページ（兄弟ページ）と1段階上のページ（親ページ）が自動的に表示され、自分がいる場所が一目瞭然で分かり、また類似する関連情報も探しやすく便利になっている。また、全ページの下部に情報検索メニューを常時表示することにより、知りたい情報にたどり着きやすくしている。

ウ 情報発信力の向上

(ア) 随所でまちの魅力をセールスするホームページへ

必要な情報がすっきり表示される総合トップページを新設し、訪問者が迷わないよう動線を徹底改善するとともに、市の玄関口として、動画や写真により市の魅力を存分にPRしている。

(イ) 市民も発信！「まちかどフォトニュース」

市民ライターの「まちかどリポーター（通称：まちリポ）」も投稿することができ、市民参加型の「まちかどフォトニュース」に進化している。

情報発信力UP！

【焼津市ホームページ】リニューアルの概要

POINT 02

パワーアップしたまちかどフォトニュース

進化！

■ 市民リポーターが「焼津の魅力」を発信



詳しくはこちら



焼津市提供資料より

(ウ) イベントカレンダーと都市O S（スマートシティ）が情報連携

イベントページに登録すると、ふじのくにオープンデータとスマートシティY A I Z Uに情報が連携され、同じ情報をいろんな媒体に登録しなくても情報連携がシームレスに行われる。

(エ) 災害の規模に適した情報発信が可能に

大規模災害時にはサイトがつながりにくい状態となるため、市ホームページは大規模災害時「テキストモード」に切り替えて情報発信したり、感染症パンデミックなど、長期にわたって継続してお知らせすべき緊急情報をトップページのファーストビュー（一番最初に目に入ってくるエリア）を使って適切に案内するほか、全てのページに自動で緊急情報等を表示し、緊急情報を伝達している。



焼津市提供資料より

(オ) どんなときでも発信できる情報基盤の構築

どのような状況においても市の情報発信が途絶えることがないよう、サーバーをクラウド化し、強力なセキュリティー、高度な負荷分散対策を施した。

2 庁内運用の変更点

(1) 分類・カテゴリーを全面見直し

全課とヒアリングを行い、カテゴリーの整理や窓口ページのリライト（利用が多いページは新規作成）することにより、これまでの延べ8,000ページを4,500ページにスリム化することができた。また、市民の信用、検索の引っかかりやすさやセキュリティーの観点から、乱立していた市関連の外部サイト

(水道局、移住定住、焼津小泉八雲記念館、子育てなど)を本体サイトである市ホームページに統合するとともに、観光情報については、観光協会での発信に一元化した。

(2) ページのURLを全面変更

これまでページのURLとページの階層に関連性はなかったが、ユーザーが迷わないため、またサイトの信頼性を向上するため、URLと階層を完全一致させた。

【焼津市ホームページ】リニューアルの概要

02 ページのURLを全面変更

URLとパンくずリスト(階層)を完全一致

従来

http://g04-004/seijin/jakunenngann/jakunennganntop.html

焼津市ホームページ > 健康・福祉・子育て > 健康・医療 > 若年がん患者等支援事業

健康・福祉・子育て

若年がん患者等支援事業

新HP

http://health-welfare/medical-care/young-cancer/index.html

焼津市ホームページ > 健康・福祉 > 医療 > 若年がん患者等支援事業

若年がん患者等支援事業

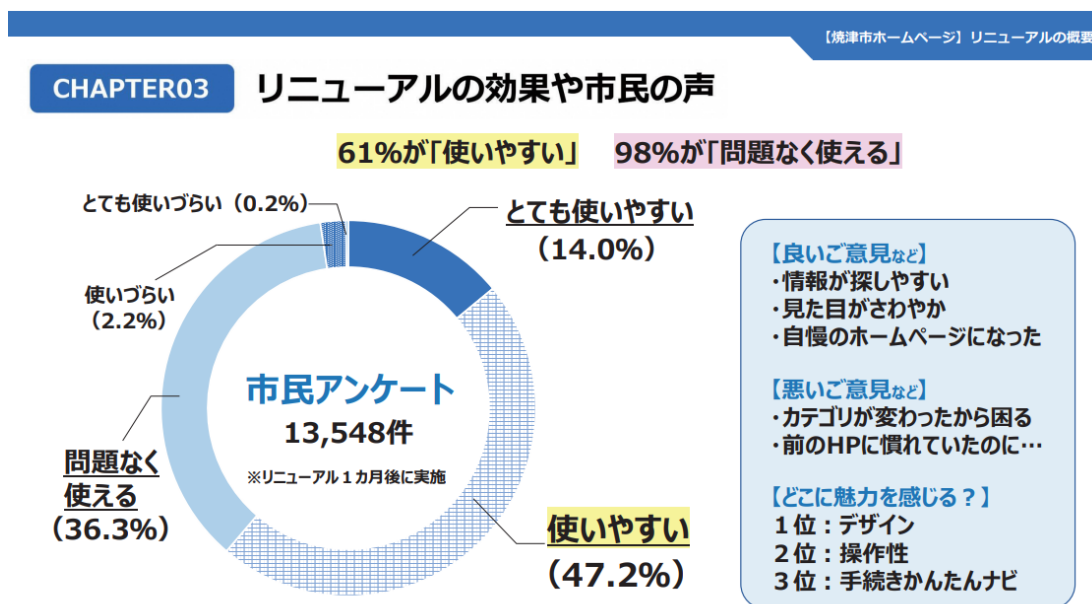
焼津市提供資料より

(3) ルールブックを作成

持続的にサイトクオリティーを保つため、今まで明文化していなかった各種考え方や作成のポイントを1つのルールブックにまとめ、ホームページ運用の指針としている。操作マニュアルとルールブックを使うことで、簡単に統一的で分かりやすいページ作成を可能としている。

3 リニューアルの効果や市民の声

リニューアル1か月後に実施した市民アンケートでは、61%が「使いやすい」、98%が「問題なく使える」と回答している。



焼津市提供資料より

4 今後の課題

- ・ 情報にたどり着きやすくなる動線の工夫
- ・ J I S X8341－3 改定への対応
- ・ 生成A I の活用（検索機能、F A Qなど）
- ・ D X（オープンデータ）との連携機能強化
- ・ 次世代S N Sや他アプリとの連携
- ・ U X、ウェルビーイングの向上

◎ 主な質疑

- ・ 分類、カテゴリーの見直しに係るページ数の目標とホームページ掲載写真の撮影者について
- ・ R F I（情報提供依頼書）における事業者による違いと予算の妥当性の評価方法について
- ・ 緊急時や災害時における情報発信の方法と職員の行う操作について
- ・ 市ホームページリニューアルに係る職員体制と職員研修の内容について
- ・ 各課の通常業務における作業従事者とホームページの更新頻度について
- ・ 再度の市民アンケートや今後の職員アンケート実施の検討について
- ・ 市内外国人による閲覧数と海外からのアクセスの有無について

◎ 主な提供資料

- ・ 「新ホームページ」リニューアルの概要

加古川市

スマートシティに関する取組（加古川市版D e c i d i m）

1 スマートシティの取組

加古川市では、2015年に策定、2021年3月に改定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「子育て施策のさらなる充実」、「しごと（働く場）の創出」、「地域活力のさらなる向上」を重点施策としている。

この戦略の1つである「暮らしの安全・安心を守り、地域連携を強化する」を実現するために、2017年から2か年かけて、小学校の通学路や学校周辺、公園周辺を中心に約1,500台の見守りカメラ（防犯カメラ）を整備し、子どもや高齢者の安全を見守る地域コミュニティの強化に取り組んできた。

(1) 見守りカメラの設置

見守りカメラの設置前における加古川市の市政課題として、刑法犯認知件数（犯罪発生件数）や認知症高齢者の行方不明事案が多く発生していることがあった。

住民の安全安心へのニーズの高まりへの対策として、子育て世代や高齢者が安心できる生活を実現するため、1,475台（各小学校区ごとに約50台）の見守りカメラを設置した。設置・運用に当たっては、地域の理解を得るために、市内12か所でオープンミーティングを開催し、市長自らが住民と対話するとともに、市民アンケートを活用しながら、運用ルールや設置目的を明確にし、個人情報保護の観点から画像データの外部提供に制限を設けるなど、住民の理解が得られる仕組みづくりを行ってきた。

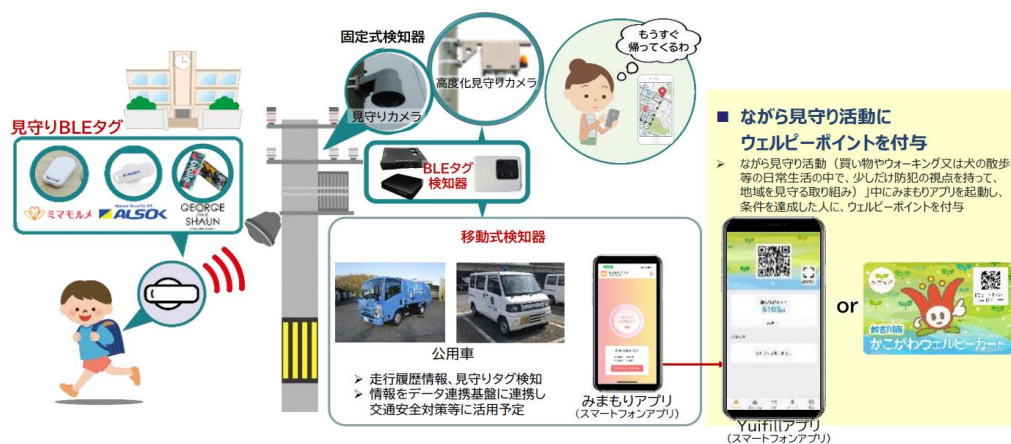
2022年度には、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用し、A I 機能を備えた高度化見守りカメラを導入した。これらのカメラは異常音検知、車両接近通知の機能を活用し、犯罪や交通事故の未然防止の仕組みを強化するとともに、取得した人流データ等を利活用したまちづくりを行っている。

I 型カメラ (100台)	II 型カメラ (50台)	危険運転検知特化型カメラ (3台)
	危険な状況の周知（犯罪の未然防止） 異常音（悲鳴・怒声）検知時に 回転灯の光とスピーカー音【夜間のみ】	
	車両接近の注意促進 （交通事故の未然防止） 一定速度以上の車両接近時に 回転灯の光とスピーカー音 【日中のみ】 人流測定 （まちづくりへの活用） 得られた人流データの分析と活用	信号のある交差点での 車両接近の注意促進 （交通事故の未然防止） 歩行者等の巻き込み事故の 未然防止 スピーカー音

(2) 見守りサービス

加古川市では、子どもや認知機能の低下により行方不明になるリスクのある方々を見守るため、見守りビーコンタグ（BLEタグ）を用いた「見守りサービス」を提供している。BLEタグは、市内に設置された約1,500台の見守りカメラや市が提供する「みまもりアプリ」、公用車等に搭載された検知器によって検知でき、その位置情報履歴を保護者や家族に知らせ、万が一の行方不明時に迅速に対応できるようになっている。

■BLEタグを活用した見守りサービス



加古川市提供資料より

(3) スマートシティの成果

地域住民の理解と協力を得て見守りカメラを設置した結果、2017年の防犯カメラ設置前には人口1,000人当たりの刑法犯罪認知件数が2,926件だったのに対し、2024年には1,761件となり、設置前と比較して1,165件、約4割減少した。

2 加古川市版D e c i d i m（デシディム）の導入

(1) 加古川市スマートシティ構想の策定

デジタル技術を活用しつつ市民生活の質を高め、市民満足度の向上を図りながら、市の様々な課題について、テクノロジーをその手段とし、市民とともに解決する「市民中心の課題解決型スマートシティ」を目指し、「誰もが豊かさを享受でき、幸せを実感できるまち加古川」を実現するため、2021年度から2026年度までを期間とする「加古川市スマートシティ構想」を2021年3月に策定した。

加古川市スマートシティ構想の策定に当たっては、スマートシティの主役となる市民の意見を可能な限り反映するため、一般社団法人C o d e f o r J a p a nと協働で、構想案について議論する場として、市民参加型合意形成プラットフォーム（加古川市版D e c i d i m、以下「D e c i d i m」とい

う。)をオンライン上に立ち上げた。

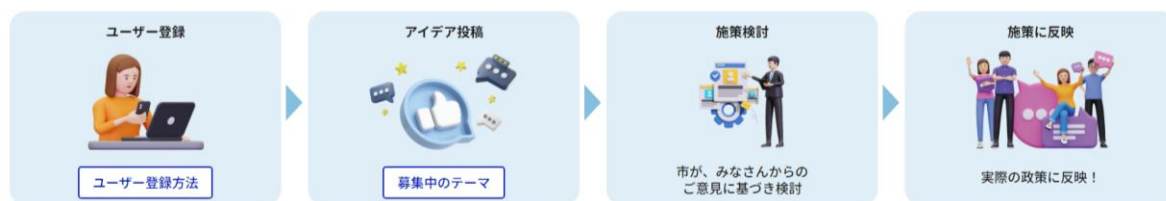
D e c i d i mは、「自分たちで決める」を意味するカタルーニャ語にちなんで、2016年にバルセロナで誕生したオープンソースの参加型民主主義プラットフォームである。

オンラインで多様な市民の意見を集め、議論を集約し、政策に結びつけていくための機能を備えているツールの1つであり、国内では加古川市が初めての導入事例となる。

D e c i d i mは、計画策定までの議論やデータが可視化されるため、参加者が納得できる最適解を導き出すことが可能となっており、オンライン（デジタルな参加）とオフライン（会議、ワークショップへの物理的な参加）を融合させながら、議論を活性化させることに加えて、デジタルディバイドの解消、幅広い世代の政治参画の実現が期待できる。

参加することではじめるまちづくり

加古川市版Decidimは、みなさんの声を実際の政策に反映させるデジタル・プラットフォームです。



誰もがきもちよく過ごせるための3つのルール

- 1 アイデアを出し合う場です。誰かのアイデアには「いいね」や「こうしたらもっとよくなるよ」と前向きな意見をしましょう！
- 2 安心して話してもらえるようにしています。登録には名前が必要ですが公開されません。ニックネームで投稿できます。
- 3 投稿の前に、「問題ないかな？」と、念のための確認をお薦めします。

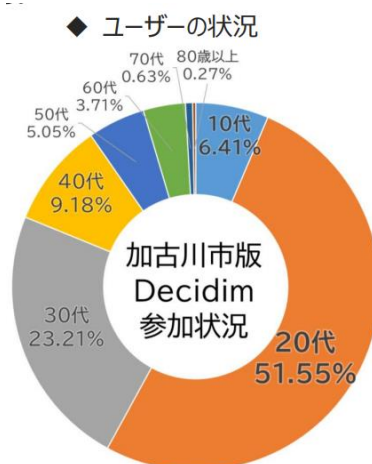
よりよいルールのために

- ・アイデア随時募集していますので、どしどしご意見をお寄せください： [加古川市版Decidimへのご意見・提案募集](#)
- ・加古川市版Decidimに関するご不明点は、ヘルプページをご確認ください： [ヘルプページ](#)

加古川市提供資料より

3 D e c i d i mにおける若者の参加

2025年3月末現在でユーザー数は4,864人、トピック数は39件となっている。加古川市における特徴は、デジタルネイティブと言われる30代以下の参加者が全体の80%を超えるという点である。D e c i d i mがデジタルツールであることが若年層を引きつける一因となっていると考えられているが、それ以上に、若年層への情報提供と地域活動への積極的な参加促進が大きく影響していると考えられている。



加古川市提供資料より

4 D e c i d i mを活用した取組

(1) 放課後プロフェッショナル

兵庫県立加古川東高校では、S T E A M教育モデル校として、経済産業省のR E S A S（地域経済分析システム）を使ったデータ分析を通じた特別講座を実施している。民間企業の協力の下、D e c i d i mを利用して生徒たちがアイデアを磨き、企画を形にしている。

D e c i d i mやオンライン会議ツールを使い意見交換を行った結果、加古川東高校の生徒たちからは、地元の靴下を感謝の気持ちを表すプレゼントとして定着させるという提案、加古川市の観光を活性化させる提案等が出された。



加古川市提供資料より

(2) 新施設の愛称決定

2022年4月に開設された公民館と子育て支援施設の複合施設の愛称を決定する際に、D e c i d i mの投票機能が活用された。

クラウドソーシングを活用して募集した約400件の愛称候補の中から事務局で9案に絞り、その中からD e c i d i mを活用して3つに絞り込んだ。その後、地域の回覧板や市役所のロビーなどでシールによる投票を実施するなど、オンラインツールだけでなく従来の方法（オフライン）も組み合わせながら愛称を決定していった。

愛称が決定された後、施設がオープンするまでの間に、施設の完成状況やオープン時のイベント案内などもD e c i d i m上で共有することによって、愛称決定に参加したという実感が生まれることにつながり、施設への親しみや利用につながっていく流れがつけられている。

(3) かわまちづくり

加古川市では、J R加古川駅から歩いて行くことができる県下最大の一級河川、加古川の豊かな水辺空間を地域資源として、「かわ空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指し、加古川の河川敷ににぎわいを創出するた

め、国、県、市、市民活動団体、市民等の様々な主体が協働し、「かわまちづくり」を進めている。

本プロジェクトは、シンポジウムの開催やワークショップの実施に加え、D e c i d i m上において「河川敷のにぎわいづくり」をテーマに、様々な意見やアイデアをもらい議論を深めてきた。

(4) 加古川駅周辺のまちづくり

加古川駅周辺の公共空間で実施した実証実験や、高度化見守りカメラから取得した人流データやシェアサイクルの利用状況のデータなども活用し、将来の加古川駅周辺を高校生、大学生と一緒に考えるワークショップを2023年8月に実施した。

参加者に3D都市モデルを活用した動画を見てもらい、グループワークでは、「駅前マップで見るアイデア発散」、「イマからできそうな駅周辺の2030年を考える」の2段階で実施した。

ワークショップやD e c i d i mで出たアイデアを紹介しつつ、2040年頃には子育て世代となる参加者から「こんな駅前だったら住みたい」というようなアイデアを自由に出してもらい、グループで共有、議論、ブラッシュアップした。また、提案したアイデアの実現可能性を確認するために、それぞれの班が駅周辺に出かけ、実際のまちの様子を感じることで、より実現性のある具体的で理想的な駅周辺のアイデアに結びつけることができた。ワークショップでは、将来のまちの姿を考えながら、イメージの共有を図るとともに、市民との合意形成を図る土台としてD e c i d i mを活用することができている。

また、オフラインでのワークショップに加え、オンラインでも意見募集を行い、いつでもどこでも意見を言える環境を整えている。

(5) その他

加古川市観光まちづくりプランの策定や次期加古川市総合計画の策定に向けて、D e c i d i mを活用した意見募集や情報発信を行っている。

5 今後の課題

加古川市では、スマートシティは社会全体にテクノロジーを導入することを目指すのではなく、市民目線でどういったメリットを生み出し、社会課題を解決できるサービスを実装できるかが重要と考えている。

今後もD e c i d i mも活用しながら市民との様々な対話を生み出し、市民とともに自分たちのまちへの愛着を醸成することで、未来に大きな夢と希望を描ける、真に幸せを実感できるまちづくりを進めていきたいと考えている。

◎ 主な質疑

- ・見守りカメラの設置に係るプライバシー保護の考え方と市民の理解を得るための取組について
- ・見守りサービスに係る自費負担による利用希望状況と認知症高齢者等の利用者数について
- ・D e c i d i mを導入することとなった経緯とオンラインツールを導入するための手法について
- ・D e c i d i mの認知度向上のための取組と導入や運用に係る費用について
- ・D e c i d i mで集まった意見の集約方法と掲載されたコメントの取扱いについて
- ・D e c i d i mにアイデアを投稿する際のルールとパブリックコメントとの違いについて
- ・アカウント作成に係る個人情報保護の考え方とデジタル弱者への対応について

◎ 主な提供資料

- ・加古川市のスマートシティの取組

〔最後に〕

以上、調査事項について資料等による説明、施設の視察、各委員の質疑等によって判明したことを含め、視察の概要を記した。

なお、視察項目の設定に当たっては、前述のとおり本市における現在の行政課題等を念頭に行ったものである。

また、視察時間を有効に活用するため、事前に視察項目に関する資料を収集し、本市事業との比較、検討を行った上で視察に臨んだ。

本委員会は、これらの成果を今後の委員会活動はもとより、市行政に反映させていくことを確認し、管外視察の結果報告とする。